令和八年　春期昇伝審査を受審して

受審記念文集

千代田岳精会弘報部

令和八年六月発行

発行に寄せて

本冊子は、令和八年度春季昇伝審査を受審された方の内、四段，五段、中伝、六段を受審された方に感想文をお願いしご提出いただいた方々の原稿を纏めました。

日頃の研鑽の成果、受審当日の緊張感、そして詩吟に寄せる深い思いがそれぞれの文章に込められています。

詩吟は単なる吟詠技術の修練にとどまらず人生を豊かにし人と人とのご縁を深め。健康と生きがいにもつながる文化であることを改めて感じさせて頂きました。

ご多忙中の所寄稿いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

千代田岳精会　弘報部門

目次

四段　表参道　柳内　えり
四段　表参道　榎本　美枝
四段　表参道　濱田　邦子
四段　表参道　奈良　吉花
四段　表参道　笹川　正平
四段　表参道　望月　保延
四段　表参道　薦田　博
四段　表参道　鈴木　豊
中伝　鎌ケ谷　三代川　栄子
中伝　鎌ケ谷　赤岩　かよ子
中伝　用賀　清水　安高
五段　桜ケ丘　岸本　良江
五段　東陽町支部　和田　洋
六段　東陽町支部　荒木　秀
六段　みなとみらい　園山　千代子
六段　みなとみらい　安田　恵美子
六段　みなとみらい　西多　英治

審査委員長の講評

幹事長　家吉　精雄　先生

皆さん、昇伝審査会を楽しみに思って今日も参りました。三年振り、六回目の訪問です。審査の結果講評を申し上げますと、皆さんのレベルの高いことを感じました。皆さんのレベルが向上というか、本当に、来るたびに皆さんが成長しているなという実感を感じながら、審査をさせていただきました。

非常に良くなった中で発声、声の高さ、強弱、緩急、そういう全体のバランスが非常良くなったなあという感じがいたしました。ぜひ百歳を目指して、頑張ってください。

これは今日の練習の積み重ねがしっかりとできていれば、素晴らしい声が出ると思いますので、皆さんもその心を大切にして下さい。本当にありがとうございました。

四段を受審して　表参道教場　柳内　えり

詩吟を始めて五年が経とうとしています。「思えば遠くに来たものだ」というのが正直な感想です。三級から始めて四段とは嘘のようです。上達具合はまだまだですが、四段を受けさせていただくこと自体が奇跡のようです。なぜなら始めた頃、詩吟は敷居が高くてとっつきにくいものだと思っていましたし、厳しく、古めかしく、どこか近寄り難い印象で、とても自分は続けられないだろうと思ったからです。

しかし続けるうち、吟の言葉の奥にある詩人の思いや、その時代の空気、抑揚、強弱など、節調の機微や繊細さが織りなす趣むき、発声の奥深さ、そして何より自分の声と向き合うことなど、他にはない豊かで、そしてもっと楽しんでよい趣味なのかもしれないと最近は感じています。

楽しむにはまず努力が必要ですが、表参道教場の先生のご指導と、仲間の皆様とご一緒できることが力になりますし、皆様への感謝は尽きません。これからも精進を続けていきたいと思います。

四段を受審して　表参道教場　榎本美恵

今回の昇段審査にて、四段を受審いたしました。吟じた詩は「桑乾を度る」です。

試験前、師匠より「深呼吸をして臨むように」とのご助言をいただきました。そこで静かに深呼吸をし、気持ちを落ち着かせて本番に臨みました。

この詩は、故郷を想い帰りたいという気持ちを抱きながらも、はからずもさらに故郷とは反対の地へ向かわねばならなくなった心情を詠んだものです。しかしその切なさの中で、十年間も長く暮らした土地が、いつしか故郷のように懐かしく感じられてくる――その詩情を深く心に刻みながら吟じました。

詩の情景や主人公の思いに没頭しているうちに、不思議と緊張も薄れ、情景を表現することに集中して吟ずることができました。

今回の昇段受審を通して、詩吟とは単に声を出す技術ではなく、詩の持つ深い意味や心情を全身で表現するものであることを、改めて実感いたしました。

今後も、表参道教場の皆様、そして徳本先生のご指導のもと、発声・素読を基本として、さらに向上を目指し、一層精進してまいりたいと思っております。

四段を受審して　表参道教場　濱田邦子

詩吟を習い始めてから、多くの詩に触れ、その歴史や背景についても学んでまいりました。

詩の情感を自分なりに表現できる力は、まだまだ努力が必要ですが、審査会場で他の受審者の方々の吟を拝聴することで、さまざまな表現方法を学ぶことができました。

今の自分だからこそできる吟、そして将来の自分だからこそ出せる味わい深い吟。そのような境地を目指して、これからも努力を続けていきたい――。そのように思わせてくれた審査会の一日でした。

四段を受審して　表参道教場　奈良吉花

今回初めて千代田岳精会の皆様と同じ会場で受審し、表参道教場以外の吟員の方々の前で、一人で吟ずること自体が初めてであり、あまりの緊張感の中、家吉先生や花山先生が、笑顔溢れるストレッチから始めてくださり、審査終了後には花山先生に「応援していますよ」と温かいお言葉をかけていただきました。

吟譜や漢詩の意味を考えながら、情景を思い浮かべて吟ずることの難しさを日々実感しつつ、昇伝審査会や吟道大会などの場で、岳精流の皆様との詩吟を通じたご縁の繋がり、広がりに喜びを感じております。素敵なご縁に感謝の気持ちを持ちながら、これからも吟ずることを楽しんで参りたいと思います。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

四段を受審して　表参道教場　笹川正平

「天気晴朗なれども波高し」これは、先の日露戦争、日本海開戦前に海軍軍人の秋山真之がその緊張と風景を残した言葉ですが、正に私もその心境で昇伝審査会場へと足を向けました。天気は快晴。しかし、私の心は緊張と不安で高い心拍を刻み、正に「波高し」ならぬ「脈高し」。審査前、表参道教場長から暗譜必須の令を受け、吟題「長安主人の壁に題す」を百万遍唱えながら会場に。審査会が始まると、家吉精雄先生からの温かいお言葉もあり、楽しい準備運動も相まって緊張も緩和。伴奏の花山精櫻先生の軽快な伴奏もあり、自分の持ちうる力を出し尽くし歌い切りました。審査終了後には、家吉精雄先生から「吟譜も大事だが、吟の内容、世界観を理解して心で歌うことが大事」とお言葉を受け、暗譜に必死で表面だけの吟になってしまった自分を恥じました。これからは、「素読百回」を志し、与えられた吟題の奥深い精神世界を心で詠えるように精進をしてまいります。

四段を受審して　表参道教場　望月保延

「初夏園中即事」を読んだ瞬間、人にはそれぞれ「身のほど」があることを痛感した。落胆しそうだが、しかしそうではない。自分を理解し、自分自身が置かれている立場、目指すところをしっかり見極めることが大切だ。そうでなければ自分の思う通りにはならないことに嘆くばかりだ。

最近詩吟で勉強する詩が心に刺さる。現代の我々が悩むことは、すでに大昔の人も悩み、解を差し出していたことにいつも驚きながら、楽しめるようになった。

四段を受審して　表参道教場　薦田　博

このたび、岳精流日本吟院総本部より、栄ある四段の認許を頂き、誠にありがとうございました。小生は元来、音楽とは無縁で、楽器も嗜むことが無い生活でした。学生時代に合宿所の富士の裾野で、大声を出し、校歌や応援歌を歌わされました。しかし、腹から大声を出すのは、気分が良く、良い経験でした。年を経て、運動も大声を出すこともない日々に、職場の中で詩吟をやろうという声が上がり始め、腹の底から大声を出すのは気分転換になり、健康にも良いと参加することにしました。

楽しい時間を過ごしていたところ、いつの間にか四段の昇段審査を受けることになり、信じられない心境でした。審査当日の会場は、皆さん緊張されていましたが、審査委員長の家吉先生のユーモアあふれるご挨拶で、場が和やかになり、皆さん実力が発揮できました。ここまでご指導いただいた徳本先生をはじめ、教場の皆様に厚くお礼申し上げます。

四段を受審して　表参道教場　鈴木　豊

一つ、皆さんよく忠実に歌っておられました。

二つ、節調をよく勉強せねばとは思っています。

三つ、声の出し方はいろいろと、いろいろだなと思いました。

四つ、節回しは難しいと感じました。

ありがとうございました。

中伝を終えて　鎌ヶ谷教場　三代川　栄子

人前で一人で吟ずるというのは、いつものことながら緊張する。特に今回は、三段、四段という方々がお上手で、私が「中伝なんて」と気遅れがして身が縮む思いでした。男性の方々も、低い声でお腹から出している渋い声が堂々としていて、素晴らしかったです。あんなに声が出たらいいなあと、ほれぼれと聞いていました。

でも聞き惚れてばかりはいられません。私は暗唱できるかどうか不安でした。この今日、数日間は毎晩頑張ったし、電車の中でも頭が疲れるくらい反復練習しましたが、まだ不安でした。そこで、前の人の吟詠に聞き惚れながらも、頭の中で反復練習していました。それなのに結果はボロボロでした。詩は忘れる、お腹から声が出せない、息が続かない。

こんな私でも上手くなれる日は来るのだろうか。迷いながら続けている私です。

中伝を受審して　鎌ヶ谷教場　赤岩かよ子

審査は緊張感のある中行われました。私たちの前の方達は若い人達で、とてもお上手な方ばかりで、とても緊張してしまいました。絶句の吟題は《春行》、短歌は《見る人の》にしました。緊張しましたが、大きい声を出す事を意識して吟じました。

家吉先生の講評は、大らかにということと、短歌はあまり教場で教えられていない中、良く出来ていましたと言われました。今迄教えて戴いたことが評価されたと思います。教えて戴いた先生方に感謝です。これからは、場慣れするためにも、研修などに参加して、いろんな方達の吟も聞いて勉強したいと思っています。

中伝を受審して　用賀教場　清水　安高

吟題の「立山を望む」は、すらりと吟じられたのですが、短歌の「見る人の」は、受審日の前日までダメでした。詩と呼吸がうまく噛み合いません。それで当日の早朝に素読十回と録音テープに入れていた宗家と山口先生の音声を聞きながら練習をしている内に、やっと出来るようになりました。それは短歌では音程を一本下げることでした。山口先生の言われる通りでした。

なんとも急ごしらえの受審日です。電車と地下鉄を乗り継ぎ、浜松町の試験会場まで来ました。会場では日頃の練習の成果を見ることができました。皆様うまい。特に神田教場の中野先生は特に上手でした。詩吟と短歌を朗々と吟じられる様を拝見いたしました。そして私はその時、「見る人の」短歌のリズム感がわかりました。不思議な感覚です。テープでの音程ではなく、生の肉声の違いです。急ごしらえはダメで、やはり日頃の練習が大切と思い至った次第です。

五段を受審して　桜ヶ丘教場　岸本　義江

三月二十八日、岳精流五段の昇段審査を受けました。日頃、教場長ご指導のもと、宗家のCDを何度も聴き、練習を重ねたことは、詩吟の習得に大変勉強になり、また励みになりました。他の教場の方の吟を聞いて、感心したり、納得したりでした。

五段を受審して　東陽町支部教場　和田　洋山

審査吟題、立山を望む、国分青涯作。立山は富士山、白山と共に、日本三霊山に数えられ、壮大で勇壮な山の姿を朗々と吟じ得るスケールの大きい絶句なので、詩情を熟慮してゆっくりと力強い吟を志がけました。暗譜で最後まで誤読もなく吟じ得たことは、今後の吟詠活動に大きな自信となり、さらなる高峰を目指して吟を追求したいと思います。

後期高齢者で入門し八年目となり、月の大半は対面研修やZoom研修で予定が埋まり、どっぷりと詩吟に浸かっております。詩吟の魅力はただ詩を吟じるだけでなく、腹式呼吸による発声が健康の維持、増進に繋がるので、ライフワークとして楽しく展開しています。審査の先生から、吟落、長寿、声量、良好という身に余るお言葉を頂き、一層詩吟に対し愛着が強くなりました。

六段を受審して　東陽町支部教場　荒木　秀

昇伝審査日の緊張感は、受審を重ねるごとに強くなります。七十番、指名を受けて、先生の前に立ち審査開始。伴奏に上手く乗り、転句を乗り越えて、もう少しで終えるというところで、今年も足に震えがきました。吟じ終えて審査の先生のお言葉で緊張が解けて我に返るのも例年通りでした。

今年の受審吟選びでは、昇伝審査日の初春にぴったりの詩文で、文字数の少ない五言絶句、且つ、起句は有名な一節なので、暗譜の負担が軽い、そして節調の美しさが際立つ春暁に即決でした。おかげさまで先生から思いやりのあるご評価を頂戴して、明日への課題を授かった実り多い感謝の昇伝審査でした。

六段を受審して　みなとみらい教場

園山　千山

この度、六段審査の指定吟題「春暁」で審査を受けました。毎朝のウォーキングの時に、一生懸命に暗譜した吟も会場に入ると自信が無くなりそうになりましたが、何とか吟じ終えました。

審査の家吉先生からアクセント上のご指摘を頂き、猛反省した次第です。当日関わっていただきました諸先生方に感謝を申し上げます。詩吟を始めて九年目に入りました。自分がこんなに長く吟と向き合うとは思ってもいませんでしたが、定年後の趣味には最適と思い、教場長、諸先輩方のご指導を受けながら、教場のメンバーと共に楽しく頑張ってまいりたいと思います。ありがとうございました。

六段を受審して　みなとみらい教場

安田　恵山

九年前から、鈴木前会長のご指導で詩吟に親しんでまいりました。現在はお教室の先輩方にご指導を受けております。お教室も最初の頃と比べると、だいぶ人数が増えてきました。私もいつの間にか古株になりました。

皆様と学ぶうちに、今年は六段を受審いたしました。いくつになっても試験は緊張いたしました。無事終えて、審査委員の家吉先生より、習得手帳に吟楽、長寿というお言葉を頂きました。とても素晴らしいお言葉で、心に留めて、これからも健康に気を配り、詩吟を続けて行きたいと思っております。

六段を受審して　みなとみらい教場

西多　英治

みなとみらい教場は、平成三十年に田川前教場長の音頭で開設されました。以来今年は九年目になり、改めて年月の流れの速さを痛感します。私はみなとみらい地区にある臨港パークで朝のラジオ体操に二十数年参加しており、そのご縁で田川さん、園山さんなどと知り合いになりました。新教場開設にあたり、田川さんから詩吟はラジオ体操とともに高齢者の健康維持に高い効用があるとのご説明をいただき、即座に参加を決めました。今年はすでに卒寿を迎えました。現在も往復八千歩の臨港パーク通いを続けられ、今般六段の試験に参加できたことも詩吟の効用と感謝しております。今改めて過去を振り返りますと、鈴木会長の長年の直接ご指導、千代田岳精会傘下の代表的教場の各先生の応援指導及び田川前教場長、現加藤教場長の温かい励ましに感謝申し上げます。また最後になりますが、今回の昇伝審査において家吉審査委員長の直接のご講評と、温かいご指導に感謝申し上げます。